

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	福永兼人	学年(渡航時)	4年
派遣先大学	ラドバウド大学		
国・地域	オランダ・ナイマーヘン		
派遣期間	2025年1月～	2026年1月	

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
Theorizing Diversity	多様性・社会的マイノリティ存在を多角的に分析・レポート
Gender, migration and religion	性・移民・宗教などにより生じた「他者存在」の歴史的追跡
Introducing gender theories	ジェンダー学に関する入門講義・オムニバス形式
Global Sex	セクシュアリティの形成過程や現代社会への影響について
Gifted education	ギフテッド教育の新たなアプローチを探る・グループワーク
2 学期目	
履修科目	授業内容
Sport and Performance Psychology	スポーツが与える心身の影響を心理学的に学ぶ
Critical Thinkers	指定の社会学者について個人レポートを作成・完全オンライン
Two centuries of sex	19・20世紀のセクシュアリティ形成の歴史や背景を追跡

留学レポート(1,500字以上)
留学先のナイマーヘンは、都心のアムステルダムやロッテルダムからは離れたオランダ東部に位置した静かな街です。同時に有名な学生街でもあり、長い歴史を持つ街です。自然が多く、人口も密集していないので、勉強をするなら非常に適した場所です。大学の設備も十分で、綺麗で新しい施設・図書館・スポーツジム(会員制)などを自由に使うことができます。学習環境の整備は大きな利点だと思います。
しかし、授業の内容は非常に難解です。1年間を通して、履修した全ての授業に膨大な時間をかけました。課題が多いというよりも、難解な授業についていくように予習準備を徹底しなければなりません。単位取得には試験を受けるか最終レポートを提出するか授業で異なりますが、いずれにせよ落胆する学生は少なくありません。使用される英語の語彙の難解さや授業内容の高度さなど、個人的にはかなり苦戦しました。留学初めや英語に慣れない方は、自信と意欲のある授業を1、2コマ履修するだけでも十分勉強になります。
日常生活は、多くの場面で大学がサポートしてくれます。現地での銀行口座開設も、大学の指示に従いました。住まいは、大学側で手配された学生向け住宅会社の指示に従い学生寮を契約します。基本的には複数人で住むので、寮生から友人を作ることができます。さらに大学が定期的に新歓イベント、ディナーパーティ、スポーツイベントを主催するので、早いうちから参加して友人を作ると良いと思います。
一方で、オランダの物価高は1年間を通してかなりの負担になりました。ヨーロッパの中でも比較的物価の高い国ですが、今回は円安の影響も加わって経済的な不自由が生じることもありました。私も含め多くの学生は自炊をしますが、一般的な自炊のコストも少なくありません。日用品を購入するスーパーの選定やセールのタイミング

など、よく考えてお金を使っていました。まともに外食をすると15~20€かそれ以上かかるので、頻繁な外食は避けていました。ナイメーヘン含め、各地域にアジアのスーパーマーケットがあります。もちろん日本で買うよりも値段はしますが、ジャポニカ米や日本企業の調味料など多くが輸入され店頭に並んでるので、こちらも利用していました。

毎日の交通手段は、基本自転車です。オランダの自転車利用は有名ですが、特に学生街は膨大な自転車の数に圧倒されます。比較的の安価で自転車をレンタルできるので、オランダ留学では自転車利用を推奨します。しかし、自転車を含めた交通マナーには注意が必要です。日本と異なり、自転車専用レーンや自転車専用の信号機、二段階左折、夜間のライト点灯、駐輪ルールなどは慣れるのに時間がかかりますし、学生の事故の話もよく聞きました。ルール違反が運悪く警察に発見された場合、そこそこの罰金を取られます。

その他の移動手段はバスと、オランダ国鉄(NS)を多く利用していました。運賃は全てカードで決済します。一度オランダの交通系アプリの使用に慣れれば、手助けなしでオランダ中どこにでも行くことができます。特にオランダ国鉄の月額プランに加入すると週末は無料で国鉄に乗車することができるので、週末はよく友人とオランダ周遊をしていました。数少ない機会ですので、国内のたくさんの都市に遊びに行くと良いです。

オランダ国民は温厚でやさしい人が多いと思います。特にほぼ100%英語が通じるので、迷ったらとりあえず聞けば多くを解決してもらえます。また学生も優しい人が多く、多くの友人を作ることができました。大事なことは、自分から動くことだと考えます。友人作りのためにイベントに参加したり、分からることは自分で調べたり聞いたり、休暇の際は自ら誘って旅行を計画したりと、とにかく積極的な行動は多くの経験をもたらしてくれると感じます。私も留学の初期は英語も通じず、環境も慣れず、授業も難しくてかなり苦労しました。だが同時に、それら多くを解決してくれたのも大学友人やルームメイト、現場で繋がった人々です。留学中は大学の授業以外にも、卒業研究の作成や就職活動、語学習得、資格の勉強など個人的な勉強の時間をたくさん費やしました。個人的にはそうした勉学以上に、人との関わりについて、自分の性格や行動について、困ったときはどうするべきかの課題解決について多くを経験したと思います。

比較的きれいな町並みで、交通の便も良く、英語も通じて、学習環境が十分に整っているオランダは、ヨーロッパ留学の候補として非常に理想的だと感じます。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



ルームメイトと寿司づくり



NEC ナイメヘン vs アヤックス



バンドでジャムセッション



印象派とオランダ



アムステルダムと運河